

2年制保育者養成校における3ポリシーの検討ーテキストマイニングを用いたアドミッション・ポリシーの検討ー

○香月 拓 田中 洋一 松川 恵子
(仁愛女子短期大学幼児教育学科) (同 生活科学学科) (同 幼児教育学科)

【研究動機、目的】

動機：本学は「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」というテーマで、2018年度私立大学研究ブランディング事業に採択された。この研究を全学的に取り組む中で、2年間の保育者養成課程で学生はどのような学習成果を身に付けるのか、その学習成果を身に付けることができるカリキュラムはどうあるべきか、そのためにはどのような学生を入学させるのか、という3ポリシーを明確にしたいと考えている。

目的：本研究では、本学と同様の2年制保育者養成校のアドミッション・ポリシー（以下、APと記す）を調査・分析し、その特徴や入学者に求める資質・能力を明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

対象：203校。2019年6月22日時点で保育士養成協議会の会員校であり、かつ幼稚園教諭免許を取得できる2年制短期大学。ただし、2019年度以降、学生募集を停止している短期大学は除いている。

方法：各短期大学の公式サイトからAPが記載されている箇所を抽出しデータベースを作成。その際以下の条件を設けた。

- ・入学者に求める能力や人物像に項目を絞ったため、APの前文や教育目標、入試の内容などは省く。
- ・データとして抽出したのは養成課程をもつ学科・専攻・コースのAPのみとし、短期大学のAPについては省く。
- ・「人」という語は頻繁に登場するが、分析の材料としては意味が薄いと考えられるため対象から外す。

作成したデータベースを用いてテキストマイニングによる分析を行った。なお、分析に用いたソフトウェアは、KH Coder 3である。

【研究結果】

抽出語同士の共起関係を分析すると図1～3のようになる。出現数は、40語（図1）、30語（図2）、20語（図3）である。

図1の各まとまりを見ると、1.専門的な知識・技能を身につける、2.子どもへの関心を持ち、保育・幼児教育を学ぶ意欲を持つ、3.コミュニケーション能力、4.自分の考え（を表現する）、5.地域社会に貢献する、6.高等学校（卒業程度の）基礎学力を有している、と分類されている。

図2では、図1と同様に、「保育・幼児教育を学ぶ意欲を持つ」といった態度に関する記載と、「高等学校卒業程度の基礎学力を有している」といった知識に関する記載に大別される。なお、高等学校卒業程度の知識については、幅広く修得していることを求める養成校がある一方で、国語に限定している養成校も複数見られる。また、「自分の考えを表現（伝えることが）できる」能力や「積極的に課題や活動に取り組む」態度も重視されていることが確認できた。その他、「社会」と「保育」が共起関係にあることから、一定の養成校が保育分野の社会的な役割をAP内に示していることがわかる。

図3では、意欲（態度）と学力（知識）がひとつのまとまりを形成している。また、音楽・美術（造形）・体育と国語は別のまとまりであることもわかる。その他、「基本的な生活習慣が身についている」や「ボランティア活動に積極的に取り組む」といった人物を求める養成校も見られる。

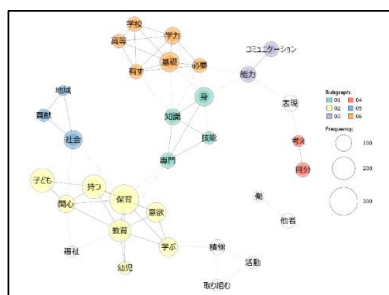


図1. 出現数40以上の共起ネットワーク

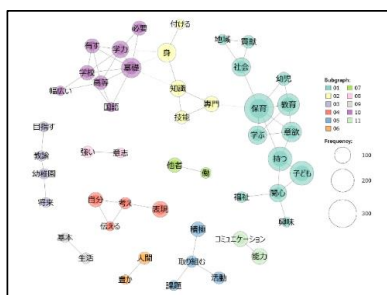


図2. 出現数30以上の共起ネットワーク

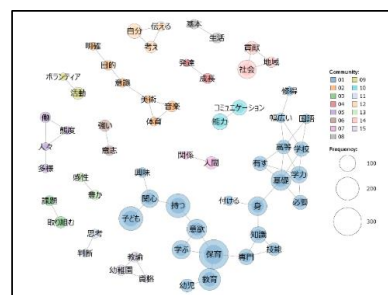


図3. 出現数20以上の共起ネットワーク

【まとめ、今後の課題】

本研究を通して、2年制保育者養成校におけるAPの特徴や入学者に求める資質・能力の全体像を把握することができた。今回の結果と本学APを比較すると、自分の考えを他者に伝える力だけでなく、他者の話を聴く力を求めるのは本学APの特徴と言えるかもしれない。今後はこの結果をもとに、本学の特徴や強みを踏まえたAPについてさらに検討していきたい。